

社団法人 日本地すべり学会

## 中部支部ニュース

第  
13  
号

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1  
信州大学工学部  
社会開発工学科内

## 巻 頭 言

平成24年4月1日付けで長野県砂防課長に就任いたしました。

前任の富山県では、副幹事長として、社団法人日本地すべり学会中部支部の皆様には大変お世話になっておりましたが、引き続きよろしくお願いたします。

さて、昨年3月に東北地方太平洋沖地震、長野県北部の地震、静岡県東部地震、さらに9月には、紀伊半島に甚大な被害を与えた台風12号により、地すべり等の土砂災害が全国各地に多数発生し、尊い生命及び財産が奪われました。ここに被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。

会員の皆様には、災害の発生直後から、被災地での踏査、観測機器の設置等の迅速な対応、警戒避難体制の整備への助言、早期復旧に向けた対策工法の検討等にご尽力いただき、感謝申し上げます。

(社)日本地すべり学会中部支部は、平成10年の発足以来、会員の皆様の活発な活動により、一般の方々に対しましても、防災知識や被害軽減の取り組み等につままして、着実に浸透を図っており、今後も、防災意識が高まる中、ますます学会の活動の重要性が増すものと感じております。

平成23年度の活動内容につきましては、6月に長野市で総会・特別講演会(97人参加)を開催し、豊田浩史 長岡技術科学大学准教授より「地震と地すべり・地盤災害」と題し、ご講演いただきました。8月30日から9月2日には、静岡市で日本地すべり学会研究発表・現地見学会が開催されました。学会研究発表会では、当支部も最大限の協力を行った結果、全国から研究者、技術者、行政職員等約530名の方々が集まり盛大に開催することができました。ご協力をいただいた方々のご尽力に改めて感謝申し上げます。

11月には長野市においてシンポジウム(82人参加)を開催し、「すべり面の追跡 ことはじめ」と題し、中村三郎 防衛大学校名誉教授の基調講演、そしてパイプ歪計による効果の確認方法に関する事例紹介、議論が行われました。地すべり対策の最前線で携わっておられる方々の発表ということもあり、実践的な話題を提供いただき大変有意義なシンポジウムが開催できたと考えております。また、10月21日には平成16年台風21号災害で被害を受け復旧した、三重県大台町(旧宮川村)への現地検討会(32人参加)、平成24年1月には台湾大規模地すべりの海外現地視察(18人参加)を実施したところでございます。

今後とも土砂災害防止技術の研究や若手技術者への技術継承、防災啓発活動、防災教育などを軸に、地域の皆様のニーズを捉え、地域社会へ貢献できる支部活動を積極的に行うことができると考えております。

平成24年度は、愛知県にご協力いただきまして現地見学会を予定しております。今後もさらなる技術向上を目指し、積極的な活動を行っていきたくと考えておりますので、引き続き会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



幹事長 田中 秀基  
(長野県建設部参事兼砂防課長)

## 平成23年度現地見学会・検討会

○日時／平成23年10月21日(金) 12:00～18:00

○場所／三重県大台町(旧宮川村)

平成16年度発生地すべり事業実施箇所等

○案内者／林 拙郎 副支部長(三重大学名誉教授)、  
三重県県土整備部河川・砂防室  
日本工営(株)名古屋支店、玉野総合コンサルタント(株)

○参加者／32名

○行程／10月21日(金)

12:00 JR・近鉄津駅発

13:15 奥伊勢フォレストピア発→現地見学  
(大井地区、滝谷地区、領内地区、天ヶ瀬地区)

15:00 奥伊勢フォレストピア着

15:10 講演会・討論会

〈講演会〉

1. 開 会 林 拙郎  
(三重大学名誉教授、副支部長)

2. 挨拶 大台町長 尾上 武義 氏

3. 講 演 永田 秀尚  
「岩盤崩壊とせき止め湖  
— 宮川2004年、2001年、  
千年前、万年前 —」

4. 講 演 諏訪 浩  
「春日谷左支流の岩屑なだれと  
西日本外帯の深層崩壊」

16:15 終 了 計22名

10月22日(土)

大台町岩井地区の緊急調査(大台町、中部支部合同調査)

調査リーダー：林 拙郎

(三重大学名誉教授、副支部長)

メンバ－：大台町、三重大学、岐阜大学、  
東京大学、中部支部企画幹事、  
日本工営(株)、  
玉野総合コンサルタント、  
風水土、日本総合建設 計10名

北陽建設(株) 宮澤洋介  
日本工営(株) 萩原陽一郎



開 会／林 三重大学名誉教授



挨拶／尾上 大台町長



講 演／永田 先生



講 演／諏訪 先生

### 〈感想〉

現地検討会は10月21～22日、三重県大台町で行なった。あいにくの雨模様の天気であったが、すっかり復旧されている災害現場を見学した。この災害は平成16年9月29日朝、九州に上陸した台風21号がその夜に大阪付近を通過して、翌日東北へ抜けたときに発生した。進行方向右側に当たる宮川村では連続800mm弱(アメダス宮川)の雨量を記録した。流域各地に土砂崩壊や地すべりが発生し、7名の死者・行方不明者が出る悲惨な災害であった。見学はバスで移動し、宮川上流の大井地区、滝谷地区から順に領内地区、天ヶ瀬地区へと下流に向かった。見学終了後、講演会及び自由討論を表記の内容で行われた。

宮川流域ではU字形に深くえぐられた河床が極めて印象的であり、その両側の段丘面に集落やライフラインが形成されている。この地形に見られるようにこの地域の最近における異常な隆起が深層崩壊発生の素因となっているなども講演の中でお話されていた。



滝谷地区



領内地区



天ヶ瀬地区

翌日10月22日は平成23年9月上旬（1ヶ月半前）の台風12号豪雨災害現場である岩井地区および桧原谷川において大台町、中部支部の合同緊急調査を行った。調査前日の21日夜からの雨は、22日朝までに連続降雨196mmを記録し（アメダス宮川）、宮川本流も酷く濁っていた。濁りの原因は、台風によって崩壊が発生した岩井地区上流や東又谷（桧原谷川支流）であった。特に、桧原谷川と宮川の合流点では、宮川本川上流の水は比較的澄んでいる一方で、桧原谷川からの水が濁水となり、下流の宮川が濁水化していることが確認できた。また、岩井地区上流で発生した崩壊は土石流化し、宮川との合流点付近にかかる橋梁を吹き飛ばすこととなっていた。

清流と呼ばれた宮川も、未だ土砂災害の素因を多く有しており、記録的な豪雨ともなれば土砂災害が発生し、直接的・間接的に住民に被害を及ぼすことを痛感した。

最後に見学場所の選定、計画、実施までの全てを執り行って頂いた大台町の皆さま、林先生、三重県県土整備部河川・砂防室の皆さまのご尽力に大変感謝申し上げます。



宮川本川、上流から下流を見る。写真右から桧原谷川が合流する。支川土石流により河道が一部閉そくし「せき止め湖」を形成する。



岩井地区（宮川との合流点）写真左が岩井の支流。写真中央で道路が途切れているように見えるのは、土石流により支流を横断していた橋梁が破壊されたためである。



東又谷の土石流、流木と山腹崩壊による道路崩壊



東又谷の状況。写真奥に山腹の崩壊、土石流、流木を確認する。

# 「東日本大震災と防災教育」について報告します

(社)日本地すべり学会中部支部幹事 島田千亜紀・小野和行

## 1. 活動のきっかけ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から2ヶ月後、中部支部では、地元NPOの支援活動に参加する機会を得ることができ、そこで被災地の過酷な現状を知りました。

津波被害が甚大であった宮城県亘理町の荒浜地区と長瀬地区の小学校児童は、校舎が使えないため、被害を受けなかった別の小中学校に間借りをして学校生活を送っていました。

「今後の復興を担っていく子どもたちに元気になってもらいたい、何かできることはないだろうか？」との思いから関係機関に働きかけを行い、名古屋市立矢田小学校において、東日本大震災に関する「おはなし会」の実施と応援メッセージの製作が実現しました。

## 「東日本大震災と防災教育」応援メッセージの紹介



★名古屋市立矢田小学校の児童が書いた「応援メッセージ」

## 2. おはなし会の実施

今回活動にご協力いただいた名古屋市立矢田小学校の学区は、東日本大震災と同じ海溝型地震である「東海地震・東南海地震」の発生が懸念され、震度5強～6弱の揺れが想定されています。津波による被害は考えにくい地域ですが、液状化の危険が高く、隣接学区では土砂災害危険箇所もあり、日頃から災害に対する意識を高めておく必要があります。



平成23年6月15日、17日、22日開催

企画部では、学校教育における継続的な防災教育支援のきっかけとなるよう、矢田小学校の先生方に中部支部の防災啓発活動やボランティア・ティーチャー制度について紹介し、ご理解をいただきました。

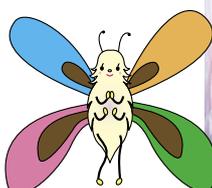
そこで「朝の会」の15分間をいただき、5年生3クラスの子どもたちに、東日本大震災における地震発生のしくみや巨理町荒浜地区・長瀬地区の被害のようす、地域で過去に発生した地震についての「おはなし会」を実施しました。

また、被害を受けた荒浜小学校・長瀬小学校のみなさんに送る応援メッセージの作成をお願いしたところ、子どもたちによる68通ものメッセージが集まりました。

### 3. 応援メッセージディスクの製作

「被災地の子どもたちに、矢田小学校の子どもたちのメッセージをいつも読んで元気になってもらいたい！」「思いっきり野外で遊んでもらいたい！」という思いから、このメッセージを「ドッジビー」というスポーツ競技で使用する「ディスク」にプリントして、荒浜小学校と長瀬小学校に届ける企画をたてました。

応援メッセージの製作には、日本ドッジビー協会の方にご協力をいただき、子どもたちの心・友情の証しとして、20個の「応援メッセージディスク」が完成しました。



★完成したドッジビーの応援メッセージディスク

### 4. 応援メッセージディスクを届ける

平成23年9月9日、荒浜小学校と長瀬小学校にドッジビーのディスクにプリントした応援メッセージを届けました。どちらの校長先生も、名古屋市立矢田小学校の児童が一生懸命書いたメッセージや絵をみて、大変喜ばれていました。

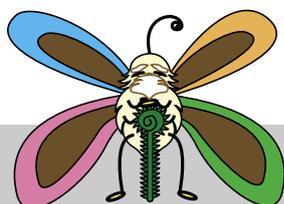
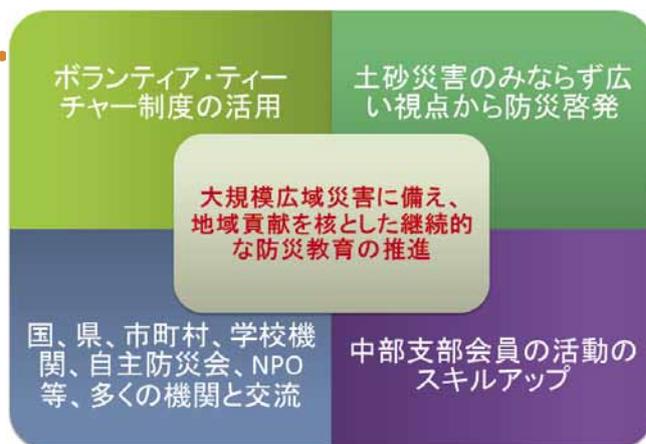


両校とも、津波により児童の家族で犠牲になられた方はいましたが、児童は全員無事だったということがなよりの救いであり、学校には少しずつ笑顔が戻ってきているそうです。

学校の復興に関しては、地域の雇用が確保され、町を離れている人たちが戻ってきてからになるということです。また津波防災に関しては、数年で学校を転勤してしまう中、日頃から意識しておくことが困難だったという現状を課題としてあげられました。

### 5. まとめ

中部支部では今回の取り組みを「支部活動と防災教育」のモデル例として捉え、今後予想される東海地震をはじめとする中部地域での大規模災害に備え、地域貢献を核とした継続的な防災教育の推進に努めていきたいと思えます。



★活動にご協力いただいた協賛団体 日本ドッジビー協会 公式サイト  
<http://www.dbja.jp/main/index.php>

## 中部支部シンポジウム

平成23年11月9日(水) 中部支部シンポジウム

- 企画活動報告：「東日本大震災と防災教育」 島田 幹事
- 基 調 講 演：「すべり面の追跡ことはじめ」 防衛大学校名誉教授 中村 三郎 氏
- 技 術 発 表：パイプ歪計による効果確認の事例 (株) 中部測地研究所 内藤 哲 氏  
長野県の地すべり対策事業について長野県砂防課 柳沢 豊茂 氏  
歪計の長所短所日本総合建設 (株) 土屋 好幸 氏  
地すべり計測資料整理と解析北陽建設 (株) 曾木 芳史 氏
- 総 合 討 論：総合討論司会企画部 内藤 幹事、飯沼 幹事  
場所：長野市生涯学習センター 参加者／82名



土屋支部長あいさつ



シンポジウムの様子

## 平成23年度日本地すべり学会第50回研究発表及び現地見学会

地すべり学会中部支部幹事会

静岡市にて8月30日～9月2日まで開催されました。中部支部では実行委員会を組織し、準備・運営に参加しました。中部地方整備局富士砂防事務所の皆さまには、実行委員会への参画、由比地すべり現地見学会での現地案内で大変お世話になりました。ここに改めまして感謝いたします。

- 日 時／平成23年8月30日(火)～9月2日(金)
  - 8月30日(火) 18:00～20:00 県民講演会「静岡県男女共同参画センター あざれあ」
  - 8月31日(水) 10:00～ 開会式・表彰式・特別講演  
「静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」」
  - 8月31日(水)～9月1日(木) 研究発表会
  - 8月31日(水)～9月1日(木) ポスターセッション
  - 9月2日(金) 現地見学会  
「Aコース：由比地すべり対策事業」「Bコース：神尾地すべり」「Cコース：土肥地すべり」

○参加者／530名



開会式



展示ブース

# 地すべり学会中部支部 台湾大規模崩壊現地視察

(社) 日本地すべり学会中部支部 幹事 小野和行

台湾の大規模地すべり視察：平成24年1月5日～1月8日までの3泊4日の日程で実施した。

○日時／平成24年1月5日(木)～1月8日(日)

1月5日(木) 12:30 発エバー航空191便にて羽田空港より台北へ

台北から専用バスで台中へ台中ホテル泊

1月6日(金) 午前 九份二山地すべり見学(専用バス)

午後 草嶺地すべり地見学(専用バス)

台南市へ移動して台南ホテル泊

1月7日(土) 午前 小林村地すべり見学(専用バス)

午後 六龜区新開の崩壊見学(専用バス)

1月8日(日) 午前 故宮博物館見学(専用バス)

支部長・会長は台湾大学へ表敬訪問

16:00 発エバー航空190便にて羽田空港へ

○参加者／18名(支部参加者7名)台湾から王文能氏に参加していただき各地すべり地の案内を御願した。



滑落斜面全景(九份二山地)

### ◆九份二山地すべり◆

1999年9月21日当該地付近を震源とする地震によって発生した岩盤すべりで、天然ダムを形成した。多くの死者をだし、現在は記念公園となっている。すべり面付近は耐風化度の低い第三紀の砂質泥岩。



滑落面(すべり面)の砂質泥岩シート粘土が挟在している(草嶺地)

### ◆草嶺地すべり◆

第三紀鮮新世相当の砂質泥岩を基盤とする岩盤すべり。1941年12月の地震及び翌年8月の豪雨により、高さ170mの天然ダムを形成以後、1979年の豪雨、1999年9月の地震によりその都度後退性の地すべりが発生し、50～90mの高さの天然ダムを形成している。現地はあいにく霧で全貌を確認することができず、すべり面の地質および対策工で実施した排水路の浸食が著しいことを確認できたのみである。周辺の崩積土すべりが顕在化し、側崖の変位が顕著であった。



○印で発生した地すべり土塊が段丘面を越え、  
□印を超えて天然ダムを形成した。(小林村地)

### ◆小林村地すべり◆

2009年8月9日台風による集中豪雨により地すべりが発生。地すべり土塊が高位段丘を乗り越え、河岸段丘上に発達した集落及び小学校を襲い、多くの死者をだした第三紀鮮新世相当の砂質泥岩を基盤とする岩盤すべり。水土保持局・成功大学の調査で地すべりを横断する断層やすべり方向の断層が確認された他、地すべり中央部のボーリングで被圧水が確認されており、これらが地すべり発生に寄与したと考えられる。

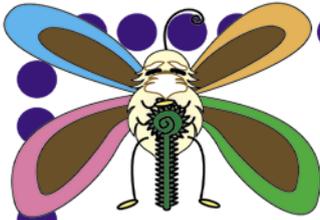
当視察には、台湾の王文能氏にお忙しい中、案内資料の作成や工程の調整、現地の案内をしていただき、感謝の意を表します。

(文責：(社) 日本地すべり学会中部支部幹事小野和行)

# 講座「土砂災害の伝承－静岡市清水区蒲原－」

## 土砂災害の史実を伝える各地のおはなしを紹介します。

島田千亜紀\*・北澤秋司\*\*・諸橋良\*\*\*



### スーベ・ヤムじいちゃんのおはなしシリーズ ③

#### 「御殿山の大崩壊」 (静岡市清水区蒲原)

江戸時代も終わり頃のことじゃ、大地震がおこってな、東海道十五番目の宿場だった蒲原宿のあたりでも、人がはね飛ばされるほどの勢いで大地は揺れてな、水がふき出したんじゃ。それと同時に火事もおこってな、御殿山には大きな亀裂ができるわ、東の方では富士川の中に地震山があらわれて川筋が変わってしまうわ、海からは津波がくるんじゃないかと思えば人々は生きた心地がしなかりうにな。そして、恐ろしい出来事はこれだけじゃすまんかった。

大地震から2～3年がたった頃、今度は大雨が降ったんじゃ。御殿山は大地震の時にできた亀裂にたくさんの雨水がしみ込んだんじゃろ、地響きをともなって北側山麓一帯にかけて崩れ落ちたんじゃ。麓にあったお寺さんや神社、それから人々の家は200戸あまりも土砂の中に埋もれてしまつてな、30人程の人々が怪我をしたり、一瞬にして死んでしまったんじゃと。泥の中に埋まってしまつて苦しかったろうにな。ほんとうに惨いことじゃのう。

それから時が過ぎ、明治時代の頃にはな、日本で初めての鉄道が走ることになったんじゃ。むかしの蒲原宿あたりの線路をつくる時に、御殿山の大崩壊で崩れた土砂を使うことになったんじゃが、掘り起こした泥の中から龍雲寺にあった文福茶釜がでてきたということじゃ。

今はのう、御殿山は春になるとな、たくさんの桜の花が咲いて、うすもも色に染まるんじゃ。そんな美しい山がのう、むかしむかし人々の幸せな生活を突然うばった恐ろしい山だとは、とても信じられない話じゃよ。

あの時の大地震は「安政東海地震」といってな、海の中の海底がずれて起こったんじゃ。海底のずれは、100～150年ごとにくり返し起きるといことじゃから、また大地震がくるんじゃよ。その後大雨が降ったもんなら、御殿山もまた崩れるかもしれんのう。

桜の花はすぐに散ってしまうがな、今度は大切な人たちを失ってしまわぬよう、「御殿山の大崩壊」のおはなしをみんなに語りついでいっておくれ。

#### ① 御殿山の大崩壊跡



安政四年七月八日、本町から諏訪町の北側山麓一帯にかけて崩れ落ちた。特に龍雲寺の付近がひどかったという。  
崩壊土砂は、明治二十年頃に行われたJR東海道線の敷設工事に使われ、新蒲原駅周辺の鉄道盛土が築かれたと伝えられている。現在の御殿山は、桜の名所として賑わっている。

\* : office アシスト・ゼロ    \*\* : 信州大学 名誉教授    \*\*\* : ふじのくに防災フェロー

## ■ 安政東海地震「安政元年(1854)十一月四日、M8.4」による地盤隆起の記録

### ② 蒲原地震山(旧蒲原町)の出現



この背景地図等データは、国土地理院の電子国土Webシステムから配信されたものである。  
 ※大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000 蒲原宿(明治20年測量)には、「字地震山」の地名が記載されている。

富士川の西側河床が隆起し、地震山が出現したため、富士川の川筋は東へ変ったという。現在、地震山の周辺には、工場や住宅が立ち並び、

### ③ 薩埵峠(旧由比町)の隆起



※薩埵峠から旧由比町・旧蒲原町方面を望む。

海岸に一時は二町程の磯路が生じる程、薩埵峠の地盤がつき上がったという。現在、薩埵峠下には、東名高速道路・国道1号線・JR東海道本線など、日本の大動脈が通っている。

## ■ 安政四年(1857)七月八日の大雨による御殿山大崩壊跡をみてみよう

### ④ 御殿山の地形・地質



山中に架かる「さくらつりばし」の東側に安山岩の露頭がある。南側に急傾斜した節理が発達しているため、崩壊跡地は、流れ盤構造である。

### ⑤ 崩壊跡地の斜面



崩壊跡地の中に、遊歩道が整備されている。崩壊跡地の東側では、廃道となっている。斜面勾配は、約40度である。

## ■ 安政五年(1858)六月二十三～二十四日の豪雨による土砂崩壊の記録

### ⑥ 東漸寺(旧蒲原町)の埋没



※東漸寺の門に設置された沿革史には、安政五年に土砂災害にあった史実が伝えられている。

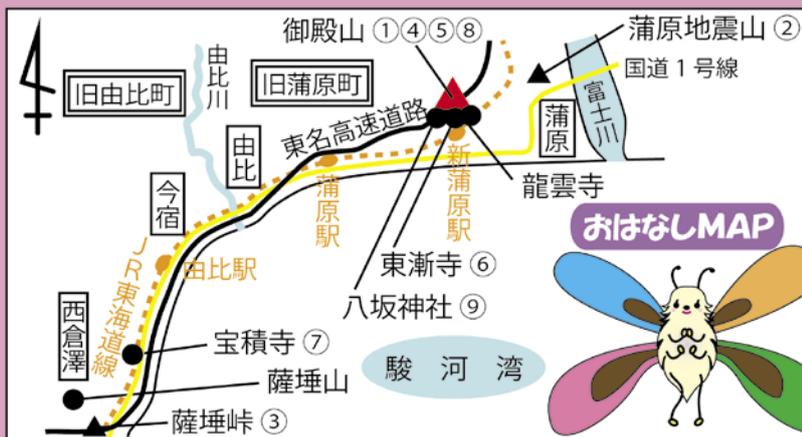
御殿山麓にある東漸寺は、本堂庫裡その他が悉く埋没倒壊したという。

### ⑦ 薩埵山・西倉澤(旧由比町)の山津波



※寺沢の山津波に関しては、「今宿村名主池田啓次郎の御用留帳」に記録があるが、宝積寺の過去帳には、該当する記述がないという。今後、更なる史料の発掘が望まれる。

薩埵山はいたる処で山崩れがおき、東海道は大破し、山のような様相になった。西倉澤では、寺沢・奥山の地が崩れて押し出し、宝積寺や近辺の家が全部土中に埋まってしまうたと伝えられている。



### ⑧ 御殿山広場からの眺望



御殿山広場から駿河湾が見渡せるの春はさくらまつりサクラエビも美味しいよ!

### ⑨ 八坂神社



## 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム「キックオフツアー」に参加して

(社) 日本地すべり学会中部支部幹事 岩田恭志

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムが位置する長野県駒ヶ根市の太田切川流域は、幾重に渡って土石流災害に襲われた地域であり、土石流災害の痕跡を多く残している。その一方、流域は昭和37年から直轄砂防事業として施設整備を進めてきており、地元や国が土砂災害に対して取り組んできた歴史を垣間見ることができる。また、周辺では光前寺や竹村家住宅など地域の歴史を学ぶことができる文化施設もあり、太田切川流域は、年間を通して観光客が多く訪れる観光スポットである。地すべり学会中部支部はこのような太田切川流域の特徴を生かして災害伝承・災害教育に役立てようとする駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムの設立趣旨に賛同し、サポート団体として支援している。

平成23年10月22日に駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアムにおいてキックオフツアーが開催されるにあたり、地すべり学会から児玉幹事と岩田幹事が参加した。

開催日はあいにくの降雨であったが、駒ヶ根市や宮田村の職員やサポート団体などから30名を超す参加者が集まった。案内はボランティアガイドの案内のほか、北澤秋司信州大学名誉教授の解説もあり、活発な質疑応答が行われた。

天候の影響で予定していたすべての施設を見学することはできなかったが、「切石」など土石流によって押し流されてきた巨石を目の当たりにして土石流災害の威力について改めて思い知らされた。また、光善寺や竹村家住宅といった文化施設を見学し、駒ヶ根の歴史・文化に触れる貴重な機会を得ることができた。

その後「こまくさの湯/ゆうらく館」において、意見交換会を行った。地すべり学会中部支部では、聞き手側の興味や目的に合わせて重点的に回る施設や説明内容を検討し、協力することを提案した。



北澤秋司信州大学名誉教授による説明



土石流によって運ばれた「切石」にて、ツアーガイドの解説を聞く



太田切川に配置されている砂防施設

※駒ヶ根フィールドミュージアムの公式HPは下記となります。「ガイドツアー参加の問い合わせ」「これまでの取り組み」「駒ヶ根市・宮田村に伝わる災害お話マップ」「ガイドブック」などたくさんの情報を提供しています。

<http://field-museum.kankou-komagane.com>

自然・人がおもしろい 高空博物館

駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム



フィールドミュージアムへ行こう!  
ガイドマップやガイドブックをごらんいただけます。

フィールドミュージアムのご案内

利用案内



フィールドミュージアムで学ぼう!  
体験学習の資料やレポートをご覧いただけます。

お問い合わせ

関連リンク

# 広報『河川砂防情報ステーション』の運用を開始しました

長野県 砂防課・河川課

土砂災害や大きな洪水に対して、早期の警戒と迅速な避難を促すために、関係機関がそれぞれ提供してきた防災情報を一元化し、多様な伝達方法で住民の皆様へ提供するシステムの運用を、平成24年3月31日より開始しました。

いままでは  
県、国がそれぞれ  
情報発信



**コンテンツ**

- 雨量観測局 355局
- 河川水位観測局 103局
- ダム・水門 10箇所
- 監視カメラ 121箇所

サイトURL[PC版] <http://www.sabo-nagano.jp/dps/>  
Website信州>災害・防災(河川・砂防・雨量情報)

県内防災情報のワンストップ・サービス化

**携帯電話でも...**

携帯電話でもPC  
と同様の情報を  
入手できます。

**メールでは...**

気象予報、土砂災害警戒情報の発表状況をメールで受取できます。

登録エリア内に警報・注意報が発表されました。  
(凡例：●警報/○注意報)

03/12 20:45  
長野地方気象台発表  
【長野地域】  
○大雪  
【中野前山地域】  
○大雪  
【大北地域】  
○大雪  
【上田地域】  
○大雪  
【松本地域】  
○大雪【奥表】  
【奥表上高地地域】  
○大雪  
【木曾地域】  
○大雪【新幹線】  
○大雪

※各地域内の代表的な情報を表示しています。



**テレビで...**

テレビのデータ放送やテロップ等で県民の皆様が利用できるように、放送事業者へ情報を配信します。  
(放送事業者と調整中)

多様な伝達方法

安心して暮らせる長野県

特別協賛法人 (4 口)

1 口

長野県治水砂防協会

(社) 斜面防災対策技術協会中部長野県支部

(社) 斜面防災対策技術協会北陸石川県支部

(社) 斜面防災対策技術協会北陸富山県支部 (敬称略)

協賛法人 (39 口)

1 口

(株) アルプス調査所

(株) エスイー

応用地質 (株) 長野支店

(株) オサシ・テクノス

小谷建設 (株)

office アシスト・ゼロ

川崎地質 (株) 中部支店

関東地質 (株) 長野営業所

(株) 建設コンサルタントセンター

国土防災技術 (株) 静岡支店

国土防災技術 (株) 長野支店

国土防災技術 (株) 名古屋支店

五大開発 (株)

(株) サクセン

(株) ジーベック

(有) ソック

総合地質コンサルタント (株)

(株) 東京電機

(株) 中部測地研究所

中部地下開発 (株)

(株) 土木管理総合試験所

長野県地質ボーリング協会

日特建設 (株) 長野支店

日特建設 (株) 名古屋支店

日本エルダルト (株)

日本工営 (株) 長野事務所

日本工営 (株) 名古屋支店

日本総合建設 (株)

日本物理探鑛 (株) 長野事務所

(株) 富士和

フロテックアンカー技術研究会

(株) 北信ボーリング

北陽建設 (株)

明治コンサルタント (株) 静岡支店

明治コンサルタント (株) 長野支店

(株) みすず総合コンサルタント

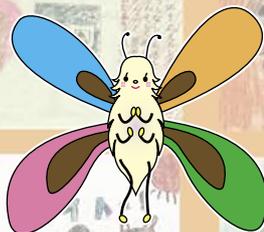
(株) 理学

(株) ランドテクト

鷺澤建設 (株)

(敬称略) はい、  
元気に遊んでね  
Good luck!

震災に負けず  
がんばろう!!  
地震に勝つ  
自信がある



スーパ・ランちゃん

(地すべり学会中部支部キャラクター)

地すべり学会中部支部ニュース

〒380-8553

中部支部事務局

長野市若里 4-17-1 信州大学工学部社会開発工学科内

電話・FAX 026-284-0833 <http://jisuberi-chubu.org/>

(企画・編集 児玉 浩、梅崎 建夫、中屋 眞司、飯沼 達夫)